

## Ⅱ 太良町の医療を取り巻く現状

### 1 南部医療圏の状況

町立太良病院は、武雄市・嬉野市・鹿島市・大町町・江北町・白石町・太良町の3市4町で構成される佐賀県南部医療圏に立地します。南部医療圏の人口は、147,685人(2020年)で毎年減少していく見込みです。しかし、医療需要が特に高い75歳以上の人口については、2035年までは増加傾向にあります。

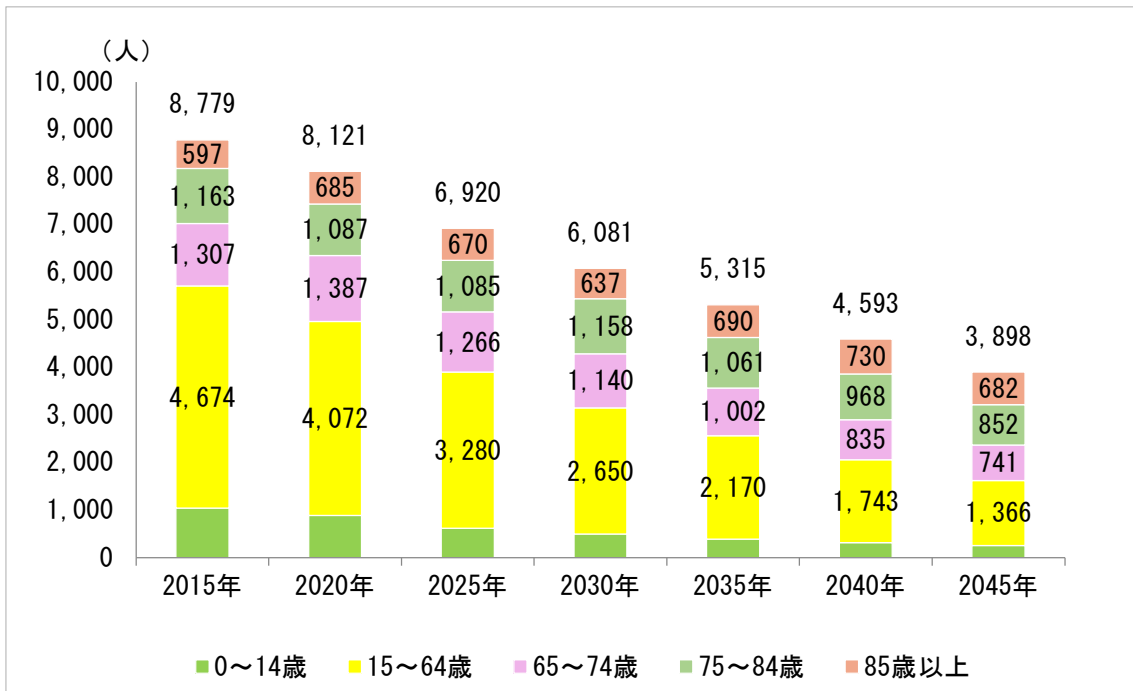
また、南部医療圏での入院患者の受療動向は、地域内完結率が高く、圏域としての完結性が見られることから、住み慣れた地域で生活が続けられるよう医療介護を支える人材の確保が重要になってきます。

### 2 太良町の状況

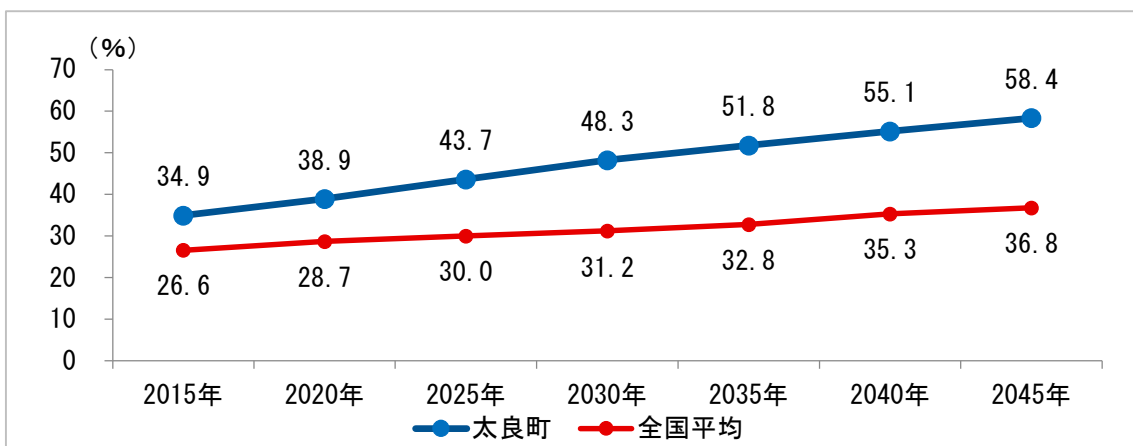
太良町においては、子育て支援事業等に力を入れているところではありますが、下図のように人口減少が進んでいます。その一方高齢化率は38%を超え、医療需要が特に高い75歳以上の人口は2030年までは増加傾向にあり、現状の医療提供体制の維持確保が重要になると推測されます。

町内では、病院が1施設、有床診療所(休床中)が1施設(令和5年3月より減少)あり、当院は町内唯一の一般急性期病院として小児医療から、内科、整形外科を中心とした医療の提供、保健事業から救急、在宅医療、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護等幅広く対応しています。対応が困難な急性期疾患に関しては、医療圏内の国立病院機構嬉野医療センター、社会医療法人祐愛会織田病院、また、中部医療圏の佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館等と連携し、回復期及び療養病床についても近隣の医療機関と連携が取れており、機能分担もできていると考えます。

・太良町の年齢層別人口推移



・太良町の高齢率



3 町立太良病院の概要

町立太良病院は、昭和24年3月、多良村立診療所として内科2床で発足以来、約75年の長きにわたり地域医療を担ってきました。平成18年4月には新病院をオープンし16年が経過しています。今後とも地域ニーズに合った医療介護提供体制を維持していくために、設備投資等も進めていきます。

病院の概要、主な経営指標は次の通りです。

・病院の概要 (令和5年9月)

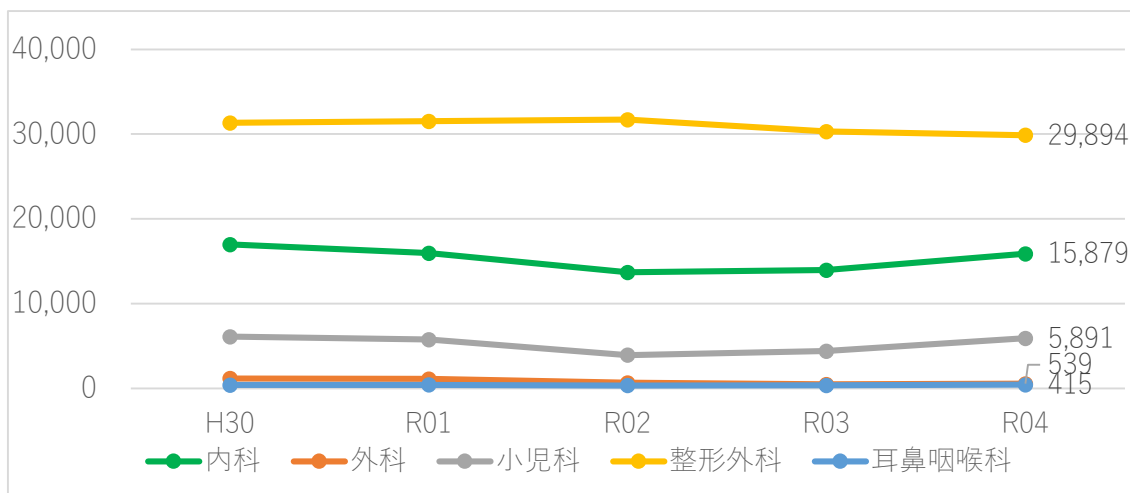
項目	内容等
開設時期	平成18年4月(新病院)
開設者	太良町長 永淵 孝幸
病院管理者	院長 上通 一泰
所在地	太良町大字多良1520番地12
病床数	60床 (機能ごとの病床数:急性期35床、地域包括ケア25床)
構造	鉄筋コンクリート構造2階建 (延床面積:6,606㎡)
標榜科目	内科、循環器内科、外科、整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科
運営形態	地方公営企業法全部適用
職員数	常勤 85名 非常勤 50名 計 135名
関連施設	訪問看護、訪問リハビリテーション、 居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション

・主な経営指指標

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
外来患者数	55,961	54,758	50,335	49,431	52,618
入院患者数	16,778	18,218	16,280	15,948	15,384
救急車受入数	136	160	113	137	146
経常収支比率	110.4	110.7	113.7	112.1	106.5
医業収支比率	97.7	97.0	87.9	88.5	91.7
病床利用率	76.6	83.0	74.3	72.8	70.2
平均在院日数	18.0	18.7	17.3	17.9	18.2
職員給与比率	51.4	51.0	64.3	67.7	66.4
累積欠損金	140,431	0	0	0	0

※累積欠損金は単位千円

・科別の年間外来患者数の推移



※各科リハビリテーションも含む

### Ⅲ 経営強化プランの基本方針

#### 1 役割・機能の最適化と連携の強化

##### (1) 地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能

町立太良病院は町内唯一の病院として、健診、小児、救急、在宅医療、そして介護分野まで幅広く対応し、地域包括ケアの一翼を担ってきました。今後とも町民の健康と福祉の増進を図ることを責務とし、次の役割を目標に運営してまいります。

- ① 小児医療、健診の役割
- ② 町民の健康づくりのため健診機関としての役割
- ③ 二次救急医療機関として急性期医療提供の役割
- ④ 町民が安心して受診できる「かかりつけ」としての役割
- ⑤ 内科、整形外科を中心とした地域ニーズに合った医療提供の役割
- ⑥ 高度急性期医療機関との連携窓口としての役割
- ⑦ 地域包括ケア病床での回復期医療提供の役割（令和5年度25床に増床）

##### 病床機能ごとの病床数推移

病床機能	～2018. 1	2018. 2～	2022. 4～	2023. 6～
急性期	50	45	40	35
地域包括ケア	10	15	20	25

- ⑧ 在宅医療、訪問看護、訪問リハビリなど地域に密着した医療提供の役割

南部保健医療圏における病床機能報告病床数(2022年度)と佐賀県地域医療構想における必要病床数(2025年)との比較

病床の機能区分	2022年度 病床機能報告病床数	2025年 必要病床数	差
高度急性期	86	161	△75
急性期	1,086	635	451
回復期	489	684	△195
慢性期	781	521	260
休床	115	—	—
計	2,557	2,001	441

出所:佐賀県「令和4年度病床機能報告の集計結果」

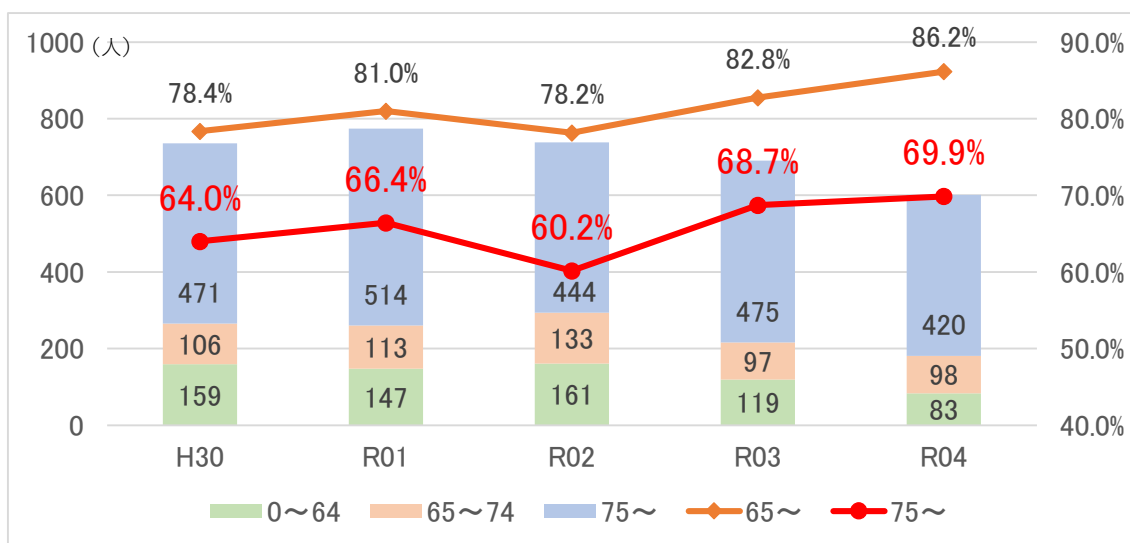
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

今後高齢化が進展していく中で、要介護状態となっても住み慣れた町で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が重要となっています。

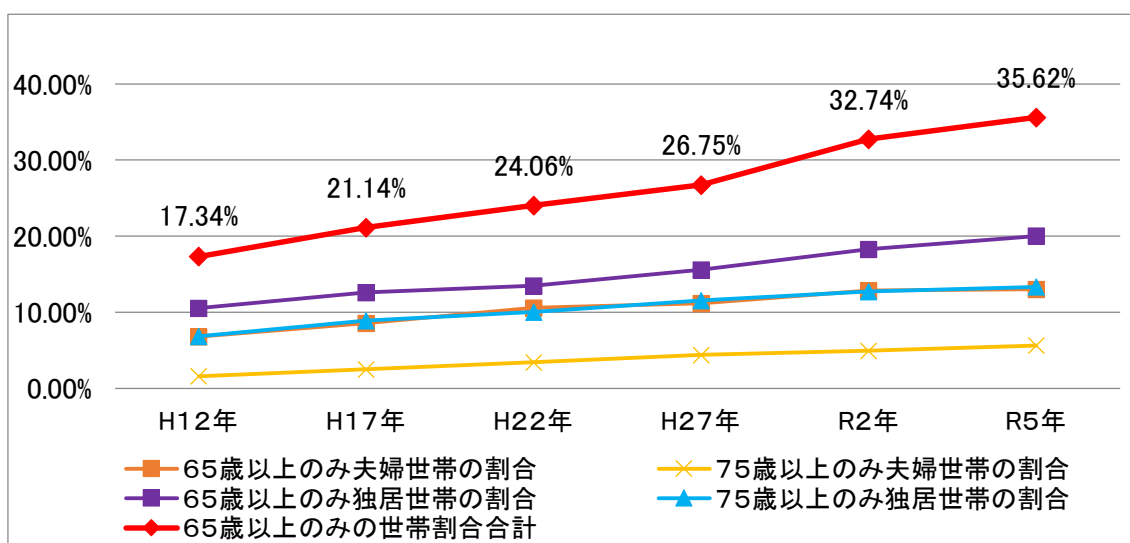
太良町では、地域包括ケアシステム研究会(略称:TC ネットワーク)を立ちあげ、当院が中心的役割を担い、予防から介護まで、行政や介護施設等と連携しながら活動しています。今後も院外活動の視点を増やし、町民向けの研修会や、リハビリ教室なども行い、町民参加型のシステム構築を目指します。

高齢者のみの世帯数が増加している中、入院患者の在宅復帰に向けては、さまざまな関係機関や職種との連携調整等、患者の身体的な状態や生活状況に応じて適切な支援を行っていますが、今以上にスムーズな在宅復帰に向けてのシステム作りのため、関係機関との連携を深めていきます。

・年間入院患者実人数と高齢者の割合



・高齢者のみ世帯の割合



(3) 機能の分化・連携強化

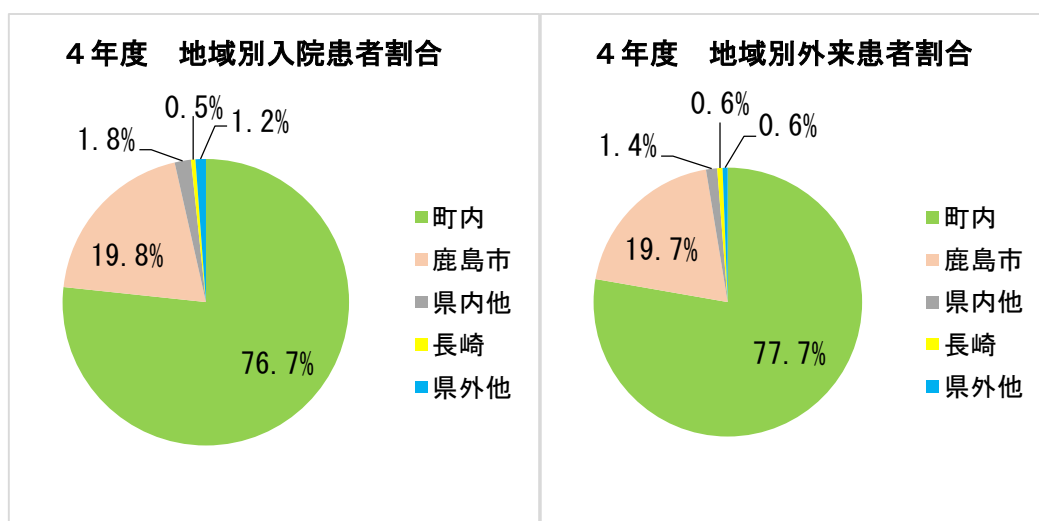
当院が位置するような地理的条件にある病院においては、小規模であっても多機能である必要があります。保健分野から、救急、在宅まで幅広い患者を診る必要がある中、「かかりつけ医」の役割から整形外科領域では年間200件程度の手術を行っています。

患者の地域別の割合をみると、入院、外来共に75%程度が町内の患者となっており、地域に密着した医療提供がなされています。その他、救急車の受入れは年間140件程

度、在宅部門に関しては、訪問診療は月当たり20件、訪問看護が300件、訪問リハビリが140件程度の提供を行っています。

連携強化に関しては、年間700名程度の患者を紹介し、同程度の紹介もいただいております。地域医療機関との機能分化と連携は確立していると考えます。また、国立病院機構嬉野医療センターと社会医療法人祐愛会織田病院との医療安全対策相互評価や感染防止合同カンファレンスもできており、多方面での連携もできています。

・入院、外来患者の地域別割合



(4) 一般会計における経費負担の考え方 ～ (5) 住民の理解のための取組  
(略)

2 医師・看護師等の確保と働き方改革 ～ 6 施設・設備の最適化  
(略)

6 経営の効率化

町立太良病院は現在一般病床60床(急性期病床35、地域包括ケア病床25)の看護基準10対1の急性期一般入院料4で運営しています。この病床機能を最大限活用できるように次の目標をあげ健全経営を目指します。

計画期間中の設定数値に関しては、別紙をご確認ください。

(1) 経営指標に係る目標値

	単位	令和4年度実績	令和9年度目標
経常収支比率	%	106.5	104.3
医業収支比率	%	91.7	92.6
職員給与比率	%	66.4	63.5
材料比率	%	13.8	13.7
薬品比率	%	4.4	4.3
病床利用率	%	70.2	80.0
平均在院日数	日	18.2	17.6
入院単価	円	37,090	38,800
手術件数	人	192	230
1日平均外来患者数	人	180	186
紹介率	%	13	15
外来単価	円	5,541	5,800
常勤医師数	人	5	6
訪問診療回数(月当たり)	人	21	30
訪問看護回数(月当たり)	人	288	390
訪問リハビリ回数(月当たり)	人	137	210
医療介護相談件数(新規)	件	771	890
医療系学生実習受入施設数	件	7	10

(2) 目標達成に向けた取組

(略)